

# 2015 年度 研究活動冊子



## 研究活動 1 班活動記録

班長 北島大夢 (2 回生)

副班長 古橋玲奈 (3 回生)

班員

3 回生 藤原大輔 大和楓生

2 回生 桑本昇汰 藤原奏子

1 回生 大槻健二 林和樹 藤井風希

### 1. 研究活動のテーマ

ファイヤートーチにおける炎色反応と一本トーチの研究

### 2. このテーマにした理由

キャンプファイヤーで行うファイヤートーチに新しいものを取り入れることによりパフォーマンスの幅が広がり今後の活動に生かすことができると考えたため。

### 3. 活動記録

**1 回目** 日時：4 月 25 日 場所：住吉川

目的：炎の色を変えたときの燃え方の比較。

内容：ホウ酸を灯油、燃料用アルコールにそれぞれ混ぜ、何も混ぜていない時との炎の色や燃え具合を比較した。また次回の内容の確認と全体の見通しを立てた。

結果：燃料用アルコールは灯油に比べて火力が弱かった (写真 1) (写真 2)。しかし灯油よりもタオルは黒く焦げなかったので持続性があると考えられた。またホウ酸と燃料用アルコールを混ぜたら炎の色が黄緑色に変化した (写真 3) が灯油と混ぜると全く変化が見られなかった (写真 4)。

反省：遅刻者がいたので気を付けるようにしっかり声をかける。

余った灯油などの処理方法をしっかりと考えておらず、その場で調べて対処することになったので次回からは調べて用意しておく。

全体：今回は初めての研活でしたが特に問題もなくスムーズに行うことができた。

次回は実際にキャンプ場に行き、トーチに火を付けた状態での持続時間などの

比較と、もう一つのテーマであるかわった形のトーチ作りを行う。今回の反省を活かすとともに準備物の不備がないよう早い段階から用意する。



( 写真1 燃料用アルコール )



( 写真2 灯油 )



( 写真3 燃料用アルコールランプ+ホウ酸 )



( 写真4 灯油+ホウ酸 )

**2回目** 日時：5月23日 場所：武庫川、部室

目的：ノーマルトーチに浸したときの炎の燃え方の確認。

内容：ノーマルトーチを燃料用アルコールだけのものと燃料用アルコールとホウ酸を混ぜたものそれぞれに浸して、燃える様子を観察した。また次回の内容の確認を行った。

結果：燃料用アルコールだけのものは 10 分ほど燃え続け、持続性はあるが火力が弱かった（写真 1）。一方、燃料用アルコールにホウ酸を混ぜた方は緑色に変色したが 3 分程でオレンジ色に戻った（写真 2）。

反省：毎回バケツでトーチを浸していたが効率が悪く、アルコールももったいないので、ほかのトーチの浸し方を考える。

全体：今回はうまくトーチに火がついて大変良かった。次回は本番同様に 15 分間浸して何分持続するか、持続時間を長くするにはどのようにすれば良いかを研究する。また一本トーチを浸す装置作りにも取り掛かる。



(写真 1 燃料用アルコールのみ)



(写真 2 燃料用アルコールとホウ酸)

**3 回目** 日時：6 月 13 日 場所：武庫川、部室

目的：浸す時間を長くしたときの燃え方と持続時間の確認。1 本トーチの作成。

内容：燃料用アルコールにホウ酸を入れて本番同様に 15 分間トーチを浸し燃やした。1 本トーチのバトン型は 180 cm のトーチの両端に 1 枚ずつノーマルトーチと同じ方法でタオルを巻いた（写真 1）。フランクフルト型はタオルを 3 枚使用し、130 cm のトーチの約半分の長さまで巻いた（写真 2）。

結果：15 分浸したトーチは緑色に変色して 4 分間持続したが色が薄かった（写真 3）。そこでホウ酸の量を増やして混ぜたところ、緑色が濃くなって燃えた（写真 4）。このことからトーチの持続時間と色の濃さはトーチの浸す時間とホウ酸の濃度

に依存することが分かった。

1 本トーチは両方とも水を含ませて回してみたところ、バトン型はトーチの長さが長く回しにくかった。そこでトーチを 170 cm にカットして作り直した。フランクフルト型は重くてスムーズに回せなかったのでタオルの枚数を 3 枚から 2 枚に減らした。

反省：燃料用アルコールにホウ酸を混ぜるとき時間がかかっているので予めホウ酸を混ぜておくようにする。

全体：炎色反応の実験はしっかりできたので次回からは研活合宿での動画撮影のために 1 本トーチの技開発と 1 回生に対してトーチの技を教えていく作業を行う。



(写真 1 バトン型)



(写真 2 フランクフルト型)



(写真 3)



(写真 4)

**4回目**      日時：6月21日      場所：学校

目的：トーチの練習。

内容：1回生にトーチの作り方とノーマルトーチの基本の4型を教えた。上回生は紅蓮あざみとひまわりの練習を行った。

結果：1回生は基本の4型ができるようになった。上回生は数名応用技ができるようになった。

反省：特になし。

全体：今回の研活は1回生が初めて参加した研活でしたが、上回生ともうまく関わっていて良かったです。またトーチの技も順調に身につけることができているので安心しました。次回からは全員が応用の技ができるように練習を進めようと思います。

**5回目**      日時：7月11日      場所：学校

目的：トーチの技習得、トーチ曲の決定、学祭の展示についての話し合い。

内容：1回生はトーチの基本4型の復習を行った。1本トーチの技開発と練習を行った。全体で撮影する動画の曲の案を考えてきてもらい2曲決めた。パネルの内容や展示物をどのようにするか仮決定した。

結果：1回生は基本4型を完璧にできるようになった。応用技も少し練習できた。トーチ曲は「FireBall」と「Escaping The Smokers」に決定した。パネルには2種類の実験と1本トーチの作り方と特徴について、展示物は3種類のトーチを展示することになった。

反省：特になし。

全体：1回生はトーチが初めてながら練習を頑張っており技の習得が早かった。次回は振付を覚えていく作業がメインとなるので班員の人には頑張ってもらいたい。



**6回目** 日時：8月24日 場所：学校

目的：トーチの作り方の復習、トーチの技習得、トーチ振付練習。

内容：1回生は紅蓮あざみとひまわりという技の練習を行った。動画撮影時の担当を決めて曲ごとに振付を練習した。

結果：トーチの作り方は全員覚えていた。トーチの技は全員基本の4型と応用の技まで習得できた。振付も全員覚えることができた。

反省：特になし。

全体：次回は動画撮影の回なので全員で失敗なく取り組みたい。

**7回目** 日時：8月28日～29日 場所：甲山キャンプ場

目的：学祭時に展示する動画撮影。

内容：撮影前に火を着けずに練習を行い、その後火を着けて練習した。ノーマルトーチ、緑トーチ、1本トーチを用いて2曲分撮影した。撮影の内容は1曲目に燃料用アルコール(2.5L)とホウ酸(250g)を用いた緑トーチとノーマルトーチで回した。2曲目はノーマルトーチと1本トーチの2種類を用いて回した。1本トーチの演出には殺陣を取り入れた。

結果：2曲ともしっかり撮影できた。特に緑の炎は明るいときにしか見たことがなく夜に暗い状態で見るととても神秘的できれいだった。また1本トーチも初めて火を着けて回してみても火力が強く見応えがあり迫力もあった。撮影前に1回生は初めて火のついたトーチをまわし、はじめは重たそうに回していたがすぐに慣れてどの技も回せることができた。

反省：タオルの枚数の予備を用意しておらず予定を少し変えて撮影を行った。針金の量が足りなかった。全体的に準備物の量に余裕を持って用意するようにする。

全体：研活1班の研究内容が詰まった動画撮影がうまく行って良かった。限られた期間の中で振付を覚えてもらい班員には感謝しています。



#### 4. 全体のまとめ

1年間ファイヤートーチの研究を行ってみてしっかりと結果が出て、班のメンバーもトーチを回せるようになってよかったです。まだまだ発展の余地があるので今後研究を深めキャンプ行事で活用されるようになれば嬉しいです。



## 5. 班員の感想

### 班長

北島大夢：今回、研活の班長をやってみて自分の好きなトーチをテーマに緑トーチや1本トーチの研究ができて良かったと思う。緑トーチに関しては生で見ると本当にきれいでぜひ来年の行事などで活用してほしいと思う。1本トーチはまだまだ技の種類も探して練習すれば今までにない新しいファイヤートーチの形として素晴らしいものが作れると思う。今回の研活で副班長はじめ班員の人には様々な面で助けられました。本当にありがとうございました。

### 副班長

古橋玲奈：3年目にして初めてトーチを回しましたが、とても楽しかったです(^ω^)  
炎色反応について成果もでてよかったです(^ω^)  
是非是非これからにつなげてください(^ω^)

### 班員

藤原大輔：2年前に見れなかった炎色反応が見れて感動した。これでパフォーマンスの幅が広がれば良いと思う。最後まで誰も焼け焦げることなく楽しい研活でした。  
(笑)

大和楓生：炎色反応に挑戦し、緑色に変えることができ、一定の成果を得ることができてよかった。1本トーチはまだ改善できるところがあると思うので来年以降もいつか改めて挑戦してほしいと思う。

桑本昇汰：新しいことに挑戦した、とても充実した研活でした。来年の行事に活かして欲しいです。はい！

藤原奏子：火の色を変える新しいトーチに挑戦できてよかったです

大槻健二：研究しながらトーチの技術を学べて良かった。初めて火を点けてトーチをまわした時はとても興奮して楽しかった。緑色は綺麗だった。

林和樹：トーチ回すのは最初は恐怖だらけでしたがやっているにつれていつの間にか楽しくなっていました！

藤井風希：この活動を経てトーチを楽しむと同時に研究材料としての魅力も感じることができました。

## 研究活動 2 班活動記録

班長 池上理朗 (2 回生)

副班長 金澤陽介 (3 回生)

班員

3 回生 中野早亜耶

2 回生 浅田早央璃 秦将志 山中美咲

1 回生 明川貴仁

### 1. 研究活動のテーマ

キャンプ場の紹介

### 2. このテーマにした理由

キャンプ場について調べることによって、今後のユース活動で利用できる新たなキャンプ場を発見でき、役立てると思ったから。

### 3. 活動記録

**1 回目** 日時：5 月 3 日 場所：サイバーライブラリ

目的：次回（5 月 23 日）に日帰りで行くキャンプ場の決定。また、研活冊子の内容の決定。

内容：サイバーライブラリでノートパソコンを借り、パソコンを使って、デスクワークを行い、次回日帰りで行くキャンプ場をアーバンビレッジオートキャンプ場に決定した。その後、研活冊子の内容決定に移り、冊子に乗せる項目、だれがどこのキャンプ場を調べるかを決めた。また、合宿（8 月 14 日、15 日）で行くキャンプ場と 2 回目の日帰り（9 月 13 日）で行くキャンプ場も仮決定した。

全体：時間はかなりかかってしまったが、班員全員が集中した、いいデスクワークだったと思う。反省点は、副班長や班員の 3 回生に頼る場面が多かったことである。上級生に頼る場面も必要だが、班長として、もう少し自立して班を率いるようにしたい。

**2回目**      日時：5月23日      場所：アーバンビレッジオートキャンプ場

目的：実際にキャンプ場に行き、ユースで使うに当たってのメリット・デメリットを探す。また、学際パネルで、家族連れ、若者に向けて紹介するためにアクティビティ（クラフト作りとフィギュア作り）を行う。

内容：前回行くことに決めた、アーバンビレッジオートキャンプ場に足を運んだ。到着した後、陶芸館に行き、班で2手に別れてクラフト作りとフィギュア作りを体験した。その後、キャンプ場を全体的に見て回り、ユースで使えるかどうか、どういう層が利用するのに向いているか等を確認した。

結果：フィギュア作りとクラフト作りは大学生が体験しても十分楽しかったが、正直どちらかといえば小学生向けのものだった。キャンプ場の中にも、子供向けの少し大きめの公園があったり、全体的に子連れの家族が利用するのに向いているキャンプ場だと感じた。また、ユースの行事では使い辛いキャンプ場だと思う。理由としては、ゲームをする広いスペースがないこと、宿泊料金が高いこと、炊飯場が狭いこと、そもそもキャンプ場が遠く、交通費がかかることが挙げられる。ただ、場所は広いため、ポイントハイクには最適で、狭いけれど炊飯場とキャンプ場が近いので、少人数で使う分にはいいと思う。

反省：事前に見て回る場所を決めてなかったり、道に迷ったり、スムーズに活動を行えない時があった。事前にちゃんと進むルートを決めておくなどして、次回以降改善していきたい。

全体：反省点は少なくないが、無事日帰りの活動を行えて良かったと思う。次回からは1回生も参加することになるので、今回の反省を生かしながら、よりよい研活にしていきたい。





**3回目**      日時：7月11日      場所：サイバーライブラリ

目的：8月14日、15日の研活合宿と9月の日帰り活動で行くキャンプ場、体験するアクティビティの決定。研活合宿の行程の決定。また、事前に出していたキャンプ場を調べて研活冊子を作成する、という宿題を班員に見せる。

内容：まず、前回の日帰り活動の反省点を確認した。その後、サイバーライブラリで借りたパソコンを用いてキャンプ場を調べ、予約状況などの不明な点はキャンプ場に電話をして、研活合宿と次の日帰り活動で行くキャンプ場と体験するアクティビティを決定した。その後、事前に課していた研活冊子の宿題でいいものを班員に見せ、次回以降の研活冊子作成に役立てるようにした。

反省：キャンプ場の予約が遅かったために、本来行きたかったキャンプ場に行けなかつ

たこと。また、今回から研活に参加する1回生を話し合いに中々参加させてあげられなかったこと。キャンプ場決めに時間がかかったため合宿の行程を決められなかったこと。3つとも予約が遅かったために起きてしまったことなので、予約は早すぎるくらいでいいから早くする。

全体：キャンプ場の予約状況が自分が思っていたよりも悪く、キャンプ場決めで行き詰まったり、バタバタしまった。また、1回生が初めて研活に参加するということで、事前に1回生だけに行きたいキャンプ場を調べてもらうという宿題を出して、研活の話し合いに入りやすくするよう工夫したが、上記の理由でバタバタしたために中々話し合いに参加させてあげられなかった。とはいえ、なんとか研活合宿と日帰りの目途が立ったので、前回の反省点を踏まえて、いい活動が出来るようにしたい。

**4回目**      日時：8月14日～15日      場所：明石市立少年自然の家

目的：実際にキャンプ場に行き、ユースで使うに当たってのメリット・デメリットを探す。また、学際パネルで、家族連れ、若者に向けて紹介するためにアクティビティ（サイクリング、木のキーホルダー作り、棒パン作り）を行う。

内容：自然の家に到着したら、入所式を行った。その後、早速サイクリングを行い、近隣の海や公園を一通り回った。1時間ほどでサイクリングを終え、続いて木のキーホルダー作りを始めた。これも1時間ほどで終えて、その後は飯盒炊爨、入浴、反省会をやって初日を終えた。2日目は、自然の家の朝の集いへの参加、宿泊室、施設の清掃、棒パン作りをやって、活動を終えた。

結果：このキャンプ場のいい面としては、施設の人が親切であること、炊飯上の貸し出しの備品が豊富であること、アクティビティが多いこと、施設がきれいであること、景色がきれいなことがあげられる。悪い点としては、ファイヤー場や自由広場等が狭いこと、自分たちが出したゴミは持ち帰らないといけないこと（やむを得ない場合はキャンプ場に回収してもらうが、有料である）があげられる。ユースで使うにあたっては比較的場所が近いというメリットはあるが、自然の家周辺が住宅地なので、過度に盛り上がる事が出来ないこと、自然が少ないこと、テントサイトが一つもないというデメリットがあげられる。そのため、行事での使用は難があるが、公募キャンプなどの企画系で使うのには適していると思う。

反省：特になし。

全体：少年自然の家というだけあって子供向けのアクティビティーが多かった。また、夜の十時には宿泊棟が消灯したり、朝6時に起床し、朝の集いに原則参加しないといけなく、利用するにあたって不便を感じる点があったが、施設の方々の接客態度は他の自然の家と比較すると抜群によく、その点では利用しやすかった。活動は特に不備もなく円滑に行うことが出来たので、次の日帰り活動もこの調子で行きたい。





**5回目** 日時：8月23日 場所：サイバーライブラリ

目的：研活冊子の修正、作成とパネルについての話し合い。

内容：まず、合宿の反省点を振り返り、その後、パネルの内容をどうするかについて話し合った。その後、研活冊子で、訂正してほしい箇所を各自訂正してもらい、訂正が終わり次第研活冊子作成をしてもらった。

反省：やることが少なく、活動時間が短かった。

全体：前回のデスクワークで次の日帰りで行く場所が決まってしまったので、今回は研活冊子中心に行った。やることが少なく、短い時間の活動だったが、研活冊子作成に苦戦していた班員がいたので、こういう活動が出来て良かった。

**6回目** 日時：9月13日 場所：しあわせの村

目的：実際にキャンプ場に行き、ユースで使うに当たってのメリット・デメリットを探す。また、学際パネルで、家族連れ、若者に向けて紹介するために施設周辺を散策する。

内容：しあわせの村に着いたら、まず、乗馬体験をするために馬事公苑に向かったが、13日がたまたま馬事公苑100周年記念で特別なプログラムだったため、乗馬体験はできず、代わりにそのプログラムを少し見た。その後、アスレチックのあるトリム園地、デイキャンプ場、自然歩道など、キャンプ場全体を散策し、活動を終えた。

結果：このキャンプ場のメリットはオートキャンプ場がきれいなこと、キャンプ場の中にもバスが通っていることが挙げられる。また、アスレチックなどの家族、子供向けの施設がある一方で、年配者向けのローンボウルフという球技が出来る場所もあり、どの世代の人でも利用しやすいのも大きなメリットである。ユースが使う上でのメリットは、学校からキャンプ場までが近いこと、テントが常設していることである。逆にデメリットはファイヤー場に段差があるため、ファイヤーゲームができないことである。

反省：調べが足りなかったため、乗馬体験が出来なかったことと、行きのバスで降りる場所を間違えたこと。

全体：乗馬体験が出来なかったのは残念だったが、その分施設全体を散策出来て良かった。しあわせの村は広大なので、大人数で利用するのに向いているし、今後もユースで使う機会を多く設けてもいいと思った。







**7回目** 日時：10月8日 場所：部室

目的：パネル4枚目の内容決定。

内容：パネルの4枚目の内容決定。1, 2, 3枚目の内容の再確認。研活冊子の今後の動向（宿題出すか、誰がまとめるか）などを話し合った。

結果：なし。

反省：なし。

全体：パネル作成に向けて、万全の準備が出来てよかった。

#### 4. 全体のまとめ

1年間を通して、大きな失敗がなく活動を終えることが出来て良かった。この研活で行った、冊子作りやデスクワーク、日帰り、合宿で携わったキャンプ場で、まだユースでは使っていない場所もいくつかあったので、今後のユース活動で利用することが出来ればいいと思う。

#### 5. 班員の感想

班長

池上理朗：一年間楽しく活動できてよかった。この経験を今後の活動で生かしていきたい。

副班長

金澤陽介：キャンプ場といっても、目的によって色々な施設が備わっている所が多いことに気付いた。

班員

中野早亜耶：多くのキャンプ場に行ったり、調べることができて楽しかったです。

山中美咲：色々なキャンプ場について、甲南の行事では普段行かない施設のことを知ることができたし、アクティビティの体験も出来て、楽しかったです！班長の偉大さを実感できました。

秦将志：いろんなキャンプ場に行けてとても楽しかった！このメンバーと一緒に研活をして楽しかったです！

浅田早央璃：研活冊子を作るのがとても楽しかった。得意分野ですよ…。

明川貴仁：初めての研活で一回生も一人でしたが班長が優しくだったのですぐなじめました。また、活動は色々なキャンプ場に行くことができたので、楽しかったです。

## 研究活動3班活動記録

班長 柳沢 奨吾 (2回生)

副班長 筒井史音 (3回生)

班員

3回生 上本康太

2回生 坂下孔庸 中山るりか 米澤隆靖

1回生 赤石誠一郎 富本佑一朗 林伸晃

### 1. 研究活動のテーマ

アウトドア用品の紹介

### 2. このテーマにした理由

部室にある使っていないアウトドア用品の使い方をマスターしたいと思ったから。そして行事などで使える新しいアウトドア用品があるか気になったから。

### 3. 活動記録

**1回目** 日時：4月11日 場所：部室、住吉川

目的：ランタンとコンロの使い方を知る。

内容：ランタンを点火し、コンロで紅茶を沸かした。

結果：(ランタン)

1回目は、空焼きに失敗し球状に収縮しなかった。またマンテルと電極棒が遠すぎて火がつかなかった。マンテルの設置の仕方を考える必要があった。

2回目は、マンテルの設置の仕方を変え、電極棒とバーナーチューブの間にマンテルを織り込んだ。ほぼ球状に収縮したが点火してもつかなかった。ガスが少ないのが原因かもしれないと考え、試しにガスの量を増やしチャッカマンで着火したところ無事に点火した。マンテルに大きな穴があいてしまいそのまま使うとグローブの破損につながるので、新しくマンテルを設置し直した。

3回目は、これまでの結果をふまえて、ガスの量を多くしたところ(つまみ1周ぐらいが目安)電極棒でも無事点火した。

(コンロ)

コンロは、ガスを目いっぱいだし、チャッカマンで点火した。コッヘルを使って

湯を沸かし、紅茶を飲んだ。5分から10分で湯が沸いた。

このコンロを使えば、薪の準備が要らず荷物の軽量化にもつながる。薪と比べてすぐに火がついて安定し、そのまま長時間保つことができる。

反省：軍手などの準備が不足していた。

全体：初めての活動にしては、スムーズに進行できました。しかしこれからの内容をもっと濃くし、意味のあるものにしていかないといけないように感じました。2回目以降も、有意義に活動していきたい。



1回目空焼き前



1回目空焼き後



2回目空焼き前



2回目空焼き後



3回目空焼き前



3回目空焼き後



点火したランタン



コンロでお湯を沸かし中

**2回目** 日時：5月30日 場所：住吉川

目的：防水マッチ、なた、ナイフの使い方を知る。

内容：なたで薪を細かくし、ナイフで削ってさらに細かくする。  
防水マッチで火をおこし着火させた。

結果：防水マッチは実際に使ってみてしっかり水につけても火がついた。  
またうちわで風を起こしたが、火は消えなかった。さらに普通のマッチと比べても火薬量が多く、湿気を気にしなくても良い点が便利である。  
なたは薪を細かくするのに使った。細かくした薪をさらに細かくしようとナイフを使ったが、使ったナイフはあまり適していなかった。

反省：軍手を忘れた。活動時間が短かった。



**3回目** 日時：6月20日 場所：住吉川

目的：ランタンの復習。  
ファイヤースターターの使い方を知る。

内容：初の一回生参加というのもあり、ランタンの復習を行った。  
ファイヤースターターを使ってティッシュに火をつけた。

結果：ファイヤースターターを使ってみたが、使い方の下調べが不足していた。  
またファイヤースターターが安物だったのもあり、火花が弱く、ティッシュにし  
か着火しなかった。ランタンは通常通り点火した。

反省：今回する予定だったパックネットができなかったのもあったが、それでも活動時  
間が短かった。ファイヤースターターに使う火種をもっと調べ用意すべきだった。



**4回目**      日時：7月11日      場所：住吉川

目的：タープ、バックネットの使い方を知る。  
ファイヤースターターの復習。

内容：住吉川でタープをたてた。  
ファイヤースターターで新聞紙に火をつけた。  
部室でバックパックにネットをつけて背負った。

結果：住吉川でタープをたてたが、地面にペグが刺さらないところがあり、そこは大きな石を重しに使って代用した。タープの備品の確認を事前にやっていたが、たてかたはおおまかにしか確認しておらず、すこし時間がかかってしまった。  
ファイヤースターターは新聞紙と綿を火種にし、着火した。新聞紙には火がついたが、綿にはつかなかった。もうちょっと火をつける工夫が必要だった。  
バックネットはバックパックにシュラフとテントを固定して背負った。金具をとめる場所によって調節ができ、また両手があき便利だった。

反省：手持ち無沙汰な人がでてしまう場面があった。  
事前の下調べ不足があった。



**5回目** 日時：8月25日 場所：部室

目的：自作バックネットを作る。

内容：ナスカンとロープを組み合わせるバックネットを作りザックに固定した。  
今回上部はもやい結び、下部はひばり結びし、最後は本結びをして固定した。

結果：しっかりザックに固定することができた。ロープの強度もあるが硬めのロープのほうがやりやすかった。また、ロープが余ったらまいて調節ができて便利だと思った。

反省：手持ち無沙汰になる人がたまにいたのでほかにできることを探しておくべきだった。ロープの結び方を忘れていたので復習をしておくべきだった。

**6回目** 日時：8月27日～28日 場所：甲山キャンプ場

目的：今まで使ってきたアウトドア用品を使ってみる。

内容：まず部室で持っていくものをバックパッキングした後、入らなかった銀マット、テントをバックネットでとめた。その後買い出しに行き、甲山キャンプ場所に向



かった。着いた後テント、タープをたてた。今回は地面にペグがしっかり刺さったので安定してたてることができた。タープをたてた後は、ランタンの空焼きを行い夜に備えた。そして夕食を作りました。なたで薪を小さくし、ファイヤースターターで火をつけました。ファイヤースターター→ティッシュ→新聞紙→薪といった順で火をつけることができた。ナイフを使って食材を切りました。肉を切ったりするのが包丁より使いやすかった。その後タープでボンファをしました。ランタンを付けたが思っていたより明るく便利だった。ボンファをしながら携帯ガスコンロでお湯を沸かしコーヒーなどを飲んだ。次の日は朝食を作り後片付けをして甲山キャンプ場を後にしました。

結果：ランタンは夜使ってみると思っていたより明るく便利だった。  
タープで寝た人もいおり、天候、時期にもよるが過ごしやすかった

反省：クレンザー、ゴミ袋などの忘れ物があった。  
暇になる時間があったのでほかにできることを考えておくべきだった。



**7回目** 日時：9月18日 場所：住吉川

目的：ペットボトル浄水器を使う。非常食を食べてみる。

内容：ペットボトル浄水器を使って住吉川の水をろ過した。そしてろ過した水を使って非常食を食べた。

結果：1回目のろ過でふつうの飲み水と変わらずきれいになった。しかし、その状態で飲むと腹をこわした人もいた。ろ過した後、煮沸すれば安全に飲むことができた。かなり汚い水でも何回かろ過すればきれいになると思われる。非常食はろ過した

水を使い食べた。お湯または水でももどすことができ味もおいしかった。

反省：遅刻者がいた。



#### 4. 全体のまとめ

今回アウトドア用品を扱ってみて、それぞれのアウトドア用品の特徴や使い方など知ることができ、楽しんで活動することができた。しかし下調べ不足などの反省もあり、班員には迷惑をかけてしまう場面もあった。もし行事に取り入れられるものがあれば取り入れてほしい。

## 5. 班員の感想

### 班長

柳沢奨吾：色々なアウトドア用品を使ってみて楽しかったです。行事などで使えるものがあれば使いたいです。

### 副班長

筒井史音：今回の研活では、今まで触ったことないものを実際に使ったり建てたりして、その便利なところを知ることができて、とても楽しかったです。

### 班員

上本康太：部室で触る機会がなかったランタンやバーナー、ファイヤースターターなどの普段縁のないようなものを実際に使用でき、とても有意義な時間を過ごせました。

坂下孔庸：部室に置いてある普段使わないものをつかえて良かった。

中山るりか：ユースの行事では使わなかったものや、その他のアウトドアに役立つものの使い方を知れた。

米澤隆靖：今まで知らなかったアウトドア用品が意外と多くて、とても興味深い研活でした。

赤石誠一郎：アウトドア用品を使ってみて、使い方などいろいろ知ることができて良かったです。

富本佑一郎：今まで見たことがないものがたくさんあり楽しかったです。

林伸晃：今まで知らなかったものを扱うことができて楽しかったです。

## 研究活動 4 班活動記録

班長 山田彩夏(2 回生)

副班長 秋定良太(3 回生)

班員

3 回生 泥伸太郎 藤田美智子

2 回生 石嶺一馬 宮下和也

1 回生 荒田昌洸 石川悠稀

### 1. 研究活動のテーマ

六甲山の魅力を伝える。主に山行を通して研究する。

### 2. このテーマにした理由

学校近辺の六甲山の魅力を知り、伝えることができれば、今後のユースの活動や Y.H.M. の推進につながると思ったため。

### 3. 活動記録

**1 回目** 日時：5 月 3 日 場所：鷹尾山、荒地山、なかみ山、金鳥山

目的：これからの活動に繋がる山行を行う。

内容：今後の山行をスムーズに行うために気を付けること、研究したいことなどを具体的に、そして今後の研究活動のベースをつくることを今回の課題とした。そのため、メジャーで近場なところを選んで山行を行った。(阪急芦屋川駅～岡本近辺) 六甲山の魅力を伝えるための研究活動なので、時間にはとらわれず、観光スポットを体感することを中心にした。

結果：観光スポットの岩梯子、風吹岩、ピラーロックは景色が良く、岩の間をくぐったり、雨や風で削られてしまうようなもろい自然の造形物だったり、実際に見たり触ったりすることで自然の偉大さを知ることができた。行った甲斐があり、これらのスポットを学園祭で紹介したいと思った。途中で道に迷って予定外のところに降りてきてしまったが、そこで地図には書かれていなかった宝寿水という観光スポットを見つけ、出会った方々に宝寿水について教えていただいた。このように、思わぬところで地図には書かれていない道や地形、大きな岩や木々、生き物を見つけることが多くあった。山行での出会いは一期一会であり、私たちに声を

かけてくださったり、助けてくださる方がいた。これは山行を行う大きな魅力であると感じた。

反省：観光スポットについて調べきれておらず、キャッスルウォールを見逃してしまったこと。反省会を山行後に長時間行ったこと。シルコンの知識不足。道に迷って予定外のところに行ってしまったこと。

全体：余裕のない山行になってしまった。研活の前にもっと準備をする必要がある。元々はデスクワークの予定だったが1回目から山行を行うことで六甲山を体感でき、次につながる有意義な回になったと思う。

山行時間を詳しく計らなかつたので、次からは計ることにする。また、山行途中に出会った方に部室の地図では全然足りないと言われ、実際道に迷ってしまったため、もう一つ地図を用意するか検討する必要がある。



**2回目** 日時：5月30日 場所：サイバーライブラリ、摩耶山（掬星台）

目的：六甲山についての知識を増やす。今後の研活方針の話し合い。  
観光スポットを目標とした山行を行う。

内容：前半はデスクワーク、後半は山行という形で活動した。

前半は六甲山の定義、これから紹介したい観光スポット、今後の研活の方針などを話し合った。図書館で借りたガイドブックや購入した六甲山のコース紹介の本、パソコン、部室の地図など様々な文献から六甲山を調べた。

後半は阪急王子公園駅から摩耶山を經由し、掬星台を目指した。今回の前回とは違い、観光スポット（掬星台）を目標とし、山行を行った。また、実際に観光する方に紹介するためにも乗っておくべきと判断し、下山は摩耶ケーブルと摩耶ロープウェーを利用した。

結果：デスクワークでは班員が理解しておくべき六甲山についての定義や観光スポットを知ることができた。時間は足りなかったものの、次回からの方針を抽象的にも決めることができ、少し学園祭に向けて先が見えてきたように思う。研活合宿で六甲山縦走をしようという計画があがり、所要時間やどこに泊まるか、どこから登るかなど具体的に話し合った。今回の山行で休憩を少なくしてみて縦走が可能かどうか判断することになった。

山行は阪急王子公園駅から街中を歩き、そこから登山道に入った。全体的にひらけたところが少なく、木に囲まれて昼間でも薄暗かった。1番暑いときに登ったこと、階段の多い道であったことが重なって、前回の山行に比べて体力が持たず、登山道の形状によって身体への負担が違うことが分かった。掬星台は天気こそ快晴ではなかったが、遠くの高い建物を望むことができた。摩耶ケーブルとロープウェイは非常に便利であった。所要時間も短く、気軽に掬星台を観光できると感じた。

反省：デスクワークの準備が足りなかったこと。シルコンを使う機会を作らなかったこと。資料の量が多すぎて見にくかったこと。山行時に班員の体調を気遣えなかったこと。反省会の内容が薄かったこと。

全体：デスクワークに関しては本当に準備不足であった。貴重な時間を十分に活用できず、班員には迷惑をかけてしまった。この反省を必ず活かして、同じことを繰り返さないようにしなければならない。デスクワークで何か決める時に、ある程度絞っていくつか選択肢を作って決めていく方が効率的であると感じた。

六甲山のコースを紹介している本を購入したことは非常に有益であった。細かいスポットとスポットの所要時間が書かれており、実際今回の山行でも役に立った。今後も積極的に使用していこうと考えている。

掬星台は非常眺めの良いところであり、山行中は体力的に厳しい部分もあったが掬星台に着いたときの達成感と、登ったからこそ見ることができる景色に感動した。山行の魅力を少し理解できたように思う。山行を重ねることによって、六甲山と山行の魅力にひきこまれている。

次回から1回生が参加するので、どのような山行をするのかをしっかりと話し合っ  
て決めようと思う。





**3回目** 日時：7月5日 場所：須磨アルプス（旗振山、鉄拐山、梅尾山、東山、高取山）

目的：1回生にも無理のないコースを登る。六甲山全山縦走路の一部に挑戦する。

内容：今回は須磨アルプスを六甲山全山縦走路に沿って登ることにした。山を尾根伝いに進むため、山頂や観光スポットで休憩が取りやすいと考え、このコースを選んだ。JR 塩屋駅から山行を開始し、阪神・神戸市営地下鉄高速長田駅で解散した。1回生が初参加のため、1回生を隊列の一番後ろにならないように気を付けた。また、体力にも無理のないようにあまり急がず、休憩もこまめにとるようにした。

結果：山行時間は長くなってしまったが、全員で登りきることができたことが1番良かった点である。雨上がりで湿気が多く、あまり良いコンディションとは言えなかったが、須磨アルプスは観光スポットが多く、またひらけたところが多いため気分も晴れ、疲れにくいと感じた。登っていると明石海峡大橋や神戸女子大学さん、須磨海岸などを望むことができた。登山道は途中長い階段があり、体力を消費したが、そこ以外は道が整備されているところが多く、歩きやすかった。また、標識が多く、道が分かりやすく、山行ルート内に電車の駅やバスが通っている道を通ることがあり、体調不良者が出た場合に下山がしやすいルートであった。初心者におすすめできるルートであると感じた。

前回は山行途中で皆疲れて会話が無くなってしまったが、1回生がよく話し、終始元気であったため、最後まで会話が絶えることがなかった。班員同士の交流の機会としても研究活動の雰囲気としても非常に良かったと思っている。

反省：遅刻者がいたこと。下山ルートを間違えたこと。GPSに頼ってしまったこと。水分の具体的な必要量を伝えきれていなかったこと。休憩時間を明確に決めなかつ

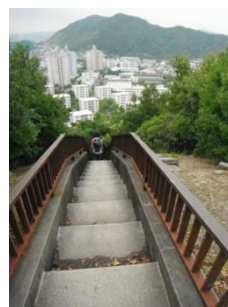
たこと。装備に雨具をいれなかったこと。

全体：今回のコースは多くの班員から登りやすいコースであった、楽しかった等、明るい感想が多かった。今回のコースを参考にして、次回以降のコースを決めていくことにする。

天気予報では当日雨だったため、副班長と相談し、朝 6 時に山行を行うかどうかの連絡をした。それに加えて改めて持ち物・集合時間の連絡をしたことは忘れ物の防止につながり、今後も丁寧な連絡を心がけようと思っている。

山行時の道の状況・観光スポットをよく把握しておくことは重要であると感じた。前回は調べて資料を持って行ったが、量が多くあまり見る機会がなかった。今回は資料を厳選し、数枚にまとめることで見やすくなり、山行時に非常に役立った。前回、前々回よりも少しずつ適切な事前の準備をして研究活動に臨めるようになり、山行に余裕を持って取り組めるようになった。今後は隊列を変えてみたり、シルコンを道に迷ったときにもっと利用するなど、いくらでも工夫できるので、アイデアを出してマンネリ化のない研究活動を行っていきたい。

今後はもっと気温が高くなってくるため、休憩の取り方や熱中症対策としてうちわを装備に入れる、体調不良者の対応などのことに気を付けて行っていく。



**4 回目** 日時：8 月 13 日 場所：六甲山牧場、六甲山山頂、記念碑台

目的：六甲山の主要なスポットを訪れる。まだ登っていない場所を山行する。

内容：サイトや雑誌でおすすめされていることが多い六甲山牧場と、前々から班員で必ず行こうという話になっていた、六甲山の山頂と記念碑台を訪れた。六甲山牧場からは山行を行う予定であったが、強い雨で油コブシを断念した。結局、六甲山牧場までバス、そこから六甲山山頂・記念碑台まで歩き、そこからバスで下山した。



結果：この日は今にも雨が降りそうな天気であった。六甲山牧場は発表の材料にしたかったため班員と相談し、天気が悪ければ六甲山牧場のみ観光して下山することになっていた。

六甲山牧場は阪急六甲駅からバスに乗って行くことができ、アクセスが良いと感じた。私たちも十分楽しむことができたが、家族連れには特におすすめのスポットである。敷地が広く、牧場ではあるが、子供の遊ぶ広場もある。羊が放牧のような形で草原に放し飼いされており、近い距離で動物たちと触れ合うことができた。

六甲山山頂と記念碑台は視界が真っ白で何も見えなかったが、とても眺めの良い場所である。六甲山に登る際は一つの目標なるスポットであり、休憩所もあり、どこかの観光スポットと一緒にいくとよい場所である。記念に行くには非常に価値があると感じた。

反省：研活を中止するかどうかの連絡が遅れたこと。雨具を忘れた人がいたこと。バスの時間を調べきれていなかったこと。天気との相談をもっと慎重に行うべきであったこと。雨対策をもう少し考えるべきだったこと。シルコンの知識が薄く、持っていったものの使えずに終わったこと。

全体：天気が悪かったため、ほぼバス移動になってしまったのが残念である。しかし、六甲山牧場と六甲山山頂・記念碑台に行くことが出来た価値は大きい。班員からのこれらのスポットの評判も良く、無理やりではあったが研活を行って良かったと思う。

今までの研究内容でかなり資料が集まってきているので、今後活動日に雨が降った場合は中止にすることに決まった。

シルコンの有効活用が出来なかった。次回の活動の前に皆で復習してから山行を行う。

今回は夏の暑さ、六甲山牧場までは以前登ったことがある摩耶山であること、実際観光で六甲山牧場に行く人のことを考慮して、行きはバスを利用し、そこからは歩く予定であった。

晴れていれば訪れるはずだった油コブシは厳しい坂道で、昔、灘の油売りが輸送途中に坂が急でよく油をこぼしたことから油コボシという名が付き、それがなまって油コブシと呼ばれるようになった。ここは去年の山歩の行事で1つのコースが登っており、登ったことがある人が多い方が学祭のより良い発表につながると思ったため登る予定にしていた。次回目指す有馬温泉も今年の子歩の行事で登るコースがあるため、天候が良いことを願っている。



**5回目** 日時：8月28日 場所：六甲山最高峰、有馬温泉（金鳥山、東お多福山、射場山）

目的：六甲山最高峰に登る。主要な観光スポットを訪れる。岡本駅から登ることのできるコースに登る。

内容：今回は岡本から六甲山最高峰を経由し、有馬温泉まで山行した。学祭の発表を見越して大学周辺から出発する道を選んだ。今までの山行コースはマイナーな道を通ることにより道を間違えたり、天候不順によって上手く成果をあげられないときもあった。そのためインターネットに掲載されていたモデルコースの地図、コースの詳細を下調べした上で、モデルコースに沿って山行を行った。

結果：山行時間は長いものの、観光スポットが遠すぎず近すぎず、程よい間隔であり、非常に休憩を取りやすかった。また、展望が良いところが多く、気持ちよく登ることができた。六甲山最高峰まで登ることができれば、あとは舗装された下り道で足への負担が少ない。六甲山最高峰から歩いて六甲山山頂まで行けば有馬温泉までをつなぐロープウェイがあり、体力に自信のない人でも有馬温泉まで辿りつくことができる。有馬温泉からバスや電車を使えば三宮や西宮まで簡単に帰ることもできる。有馬温泉はアクセスが良く、山行の目的地として非常に良い場所であると感じた。疲れを癒すことができる温泉を目的地とすることで山行のモチベーションにつながる。実際、班員も最後に有馬温泉に入ることが出来ることを楽しみにしていた。自然と会話が弾み、前回までの山行より疲れが少なかったように感じた。

反省：欠席者が多数いたこと。研活の重要性の呼びかけが足りなかったこと。下りで休憩を取らなかったこと。

全体：欠席者が多く山行を行うか迷ったが、運営の方々に相談して行うことにした。当日は天気が良く、気持ちよく登ることが出来たので、人数が少なくてもやる価値は大きかったと感じている。

前回までの反省を生かし、休憩時間を指定した。班員の疲れ具合やこの先の休憩場所までの距離に合わせて休憩時間を調節することで、途中でだれてしまうことなくスムーズに山行を行うことが出来た。今後も休憩時間には気を付けていこうと考えている。

今回はシルコンを利用した。部室でシルコンの復習をし、六甲山最高峰でどちらの方向に進むべきか確認した。サイトのモデルコースになるほどメジャーなコースだったため、案内板が多く設置されており、道に迷うことはなかった。しかし、シルコンは持っていることで安心する。シルコンはいざという時のために持っていくべきだと感じた。

欠席者の欠席理由は各個人異なっていたが、研究活動の部活動においての位置づけや重要性を伝えきれていなかったことは原因の一つと言える。欠席者には今後欠席することのないようにということや、研究活動の意義、参加姿勢について連絡、注意をした。今後は欠席者が出ないことを祈っている。



**6回目** 日時：9月15日 場所：宝塚（岩倉山・讓葉山・岩原山・大平山）

目的：六甲山全山縦走路の残りの部分を訪れる。六甲山の東端を登る。

内容：ここまで5回の山行で登っていなかった宝塚で山行を行った。この班以外の人にも学園祭の展示で山道の登りやすさや景観についてなど、内容のある話をしてほしいと考え、山歩の行者山コースと似たルートを選んだ。9月の暑い時期のため、山行時間は比較的短めのルートを選んだ。迷いそうなところや危なそうなところは避けた。宝塚駅から出発して宝塚駅に到着するコースをつくることで、学園祭で甲南大学から少し足をのばしたコースの紹介ができると考えた。

結果：全体的にひらけたところのないコースであった。空が見えることもあるが、木が生い茂っており、下の景色がほとんど見えなかった。道は基本平坦で足の負担は少なかった。宝塚駅からしばらくはきつい登りが続くが、コンクリートの道を登りきると塩尾寺（えんべいじ）で休憩することができる。塩尾寺までは眺めが良い場所もあり、気持ちが沈まず急な登りも乗り越えられる。塩尾寺からは登山道に入り、しばらく登ると平坦な道に出る。船坂峠から下っていく道は非常に足場が悪い。ゴツゴツした岩や倒れた木が多いうえ、足元がぬかるんでいるところがある。気を付けなければ転倒しまいそうになる。しかし、なかなか出会わない光景にワクワクした。アスレチックのように安全そうなところを探して進むのが楽しく、案外疲れを感じなかった。舟坂のバス停からは宝塚駅までバスが出ている。本数は少ないが、バスの時間に合わせて山行を行えば十分便利に利用できる。須磨アルプスと同じようにいくつかの山を縦走した。六甲山全山縦走路は道がしっかりしており、非常に歩きやすい。初心者が一気に全山を登りきることは難しいが、是非歩いてみて欲しい。一部だけでも十分楽しめ、案内板も多いので迷わない。

反省：遅刻・欠席者が多かったこと。山行中の隊列が前後で離れることがあったこと。六甲山全山縦走路をすべて通り切らなかったこと。シルコンを持ってこなかったこと。写真を撮ってほしいと呼びかけしていなかったこと。

全体：このコースの魅力は楽さだ。特に問題もなく、スムーズに山行を行うことができた。予定通りのコースを予定通りの時間でこなし、バスに乗車することができたが、スムーズにしているからこそ道を変更する等工夫ができたはずだ。班員の体力に余裕があったならば、六甲山全山縦走路をすべて歩き切ることができたはずである。これが一番の後悔である。山行を予定通りに行うことばかり考えてしまっていた。次回はパネル作成のためこれで山行は最後である。最後だからこそ欲張っても良かったのに守りに入ってしまったことが悔やまれる。

シルコンはもっと明確に使う理由や使い方についてどう還元するか考えていたら良かったと感じている。

反省は思い返すとたくさん出てくるが、これまでの山行で得た知識と経験をしっかり伝えることができるパネルを作ろうと考えている。得るものも多かったこの研究活動の集大成としてパネルには力を入れる。



**7回目** 日時：10月10日 場所：甲友会館会議室

目的：パネルの作成

内容：事前に考えてきた構成に沿ってパネルを作成した。

- 1枚目 テーマ、テーマ設定理由、班員紹介
- 2枚目 六甲山の定義、観光スポットの紹介
- 3・4枚目 六甲山山行地図
- 5枚目 ランキング、まとめ

結果：なし。

反省：班員の仕事の振り分けに偏りがあったこと。写真等材料の準備不足があったこと。

全体：サブテーマが六甲マイスターとしているため、山行についてではなく六甲山について紹介する構成をとった。山行したからこそ分かる山道の状況や観光スポットの感想、頂上からの眺めなど、充実した内容のパネルを作ることができたと感じている。班員が快く協力してくれたおかげでスムーズに作業を進めることができた。

#### 4. 全体のまとめ

山行場所を六甲山に絞ることで以前あった研活と差別化を図ることができた。なるべく多くの情報をパネルで伝えたいと考えていたため、山行地図を作成しすべての山行について紹介することができ、嬉しく思っている。六甲山の魅力が部員はもちろん、パネルを見た方に伝われば幸いである。

山行は決して楽なものではなく、班員には多くの負担を与えることとなったが協力してくれたおかげで良い研究ができたと感じている。今後の活動に活かしていきたい。

#### 5. 班員の感想

##### 班長

山田彩夏：六甲山を今までより身近に感じるようになりました。1年間やり切れて良かったです。班員の皆さんには感謝しかありません。

##### 副班長

秋定良太：1年間で立派な六甲マイスターになれました。

##### 班員

泥伸太朗：この研活を通して六甲山の魅力をたくさん知ることができました。色んな人に六甲山の良さを伝えたり、ユースの行事に活かして行ってほしいです。

藤田美智子：六甲をひたすら登って、六甲マイスターにまた一歩近づけました！

石嶺一馬：登山する事により体力、脚力の向上はもちろんのこと、その中で出会う景色や人々との交流により感受性を高めることができた。

また登山の舞台が身近に存在する六甲山ではあったが、自分の知らない景観に出会うことができ、常に新鮮な気持ちであった。

宮下和也：山を登ることによって登山者との出会いもあり山登りの良さを最大限に知ることができたと感じています。いい経験になりました。

荒田昌洸：普段ユースの行事でも山行をする機会はそこまで多くありませんが、山登りが好きなので自分にとってぴったりの研活でした。

今まで六甲山のことをあまり知りませんでしたが、この研活を通して六甲山の魅力を知ることができてよかったです。

石川悠稀：六甲山を登るにつれて普段見られないような景色や施設などを見ることができて楽しかったです。皆さんには是非六甲山に足を運んでいただきたいと思えます。

## 研究活動5班活動記録

班長 曾根琴美 (2回生)

副班長 福山裕也 (3回生)

班員

3回生 森本紘太郎 矢野あゆみ

2回生 後藤靖季 三浦早絵 吉岡銀平

1回生 上原聖考 林恭平 増田将丈

### 1. 研究活動のテーマ

自然を使った遊びを考える

### 2. このテーマにした理由

自然のものを使ってどういう物をつくることができるか、そしてそれを使って何かゲームができないかに関して興味があったから。

### 3. 活動記録

**1回目** 日時：5月2日 場所：部室

目的：竹を用いた遊び道具をつくる。

内容：カッター、小刀、彫刻刀、棒やすりを用いて竹とんぼをつくった。竹とんぼをあぶったりして角度に変化をつけて実際に飛ぶか試した。最後に前期に何を作るかについて話し合った。

結果：実際にとばしてみたがとばなかった。そして竹を加工するのに時間がかかった。

反省：小刀使用による怪我など安全面の怠り。



**2回目** 日時：6月21日 場所：大学構内

目的：竹を使用し、竹ぽっくりをつくる。

内容：竹を筒の状態から切断し、6cm,10cm,11cm,13cm,15cm,19cm と長さの違う竹ぽっくりをつくり、それを使用し遊び方を考えた。割れやすい竹に穴を開ける際に、キリ、はんだごてを使用しどれをどう使用すれば竹が割れないか調べた。

結果：キリを使い穴を開けようとする竹が裂けてしまうため、少しキリでくぼみをつけてからはんだごてで焼いて穴を開けるというのが1番時間がかからずきれいに穴を開けるとわかった。最後に、竹ぽっくりに乗りながら紐をまたぐ障害物リレーと竹ぽっくりに乗りながらする蛇じゃんけん、サッカーをした。竹ぽっくりを竹の節の部分を使って作るのと筒の部分だけでつくるのでは強度や実用性共に違いはない。

反省：遅刻者、欠席者が多かった。

下準備がしっかりとできてなかったため何回も部室に用具を取りに行った。





**3回目** 日時：7月11日 場所：大学構内

目的：実際に飛ぶ竹トンボ作り

内容：1回生が初めての参加だったため今までに作った竹トンボ作りをもう一度行った。上回生は1回目の活動の際に作った竹トンボの向上、改善を目指した。羽の軽量化をめざし極限まで削るほか、形も従来の基本的な形とは違うものを作った。軸に使う物も、竹、竹串、割りばしを使ってどれが飛びやすいか試した。

結果：羽の薄さは1mmほど、形に関しては従来の竹トンボと比べると独特なものできたが、実際に飛ばすことができた。軸は一般的には軽いほうが良いとされているが、今回の活動では竹、竹串より重い割りばしのほうが軸が安定して飛びやすいということがわかった。

反省：ボンドをつける量をあまり考えていないのと、早く乾かすためのものを持ってきていなかったなので乾かすのに時間がかかってしまった。



**4回目** 日時：8月4日 場所：大学構内

目的：5回目と6回目の研活のための話し合い。

内容：5回目に施設に出向いて物作りをするため、そのための施設決定と何を作るかを割り振った。そして6回目の研活に実践するためのオリジナルゲームの案を収集。

結果：特になし。

反省：特になし。

**5回目** 日時：8月25日 場所：吹田市自然体験交流センター

目的：自然を使ったクラフト作り。

内容：バードコール、しおり、焼き板の作成。

結果：バードコールはコルク状の木に大きなネジを差し込むと鳥の鳴き声のような音ができることができ完成した。しおりは実際に外に出向いてそれぞれの好みの葉を集め作成した。葉から出る汁によるしおりを目指したがあまりでなかったため葉を直接はさんだタイプのしおりを作成した。焼き板は実際にあぶるところから始め、焼いた板にそれぞれ文字や絵を描くことでそれぞれの焼き板が完成し成功した。

反省：特になし。



**6回目** 日時：9月10日 場所：住吉川

目的：自然に関するオリジナルゲームの作成。

内容：事前に考えてきてもらっていた8つのゲームを実際に住吉川にて実践してみた。

学祭パネルに向けて、どのゲームを紹介したいかを絞った。

結果：案にあった8つのゲームから4つのゲームに絞った。その土地の自然に関するクイズを出題する「自然体感ゲーム」、川辺の石が転がっている中に点数が書かれた石を見つけて点数を競う「サーチオブストーン」、お題に近い重さの水を汲むのを競う「ウエイトオブウォーター」、回答者には中を見せないで箱の中に手をいれてもらい、箱の中には葉や石などをいれて中身を当ててもらう「ブラインドボックス」の4つを学祭パネルに掲載することにした。

反省：研活の日時を把握していない欠席者がでた。



**7回目**      日時：10月10日      場所：大学構内

目的：研活パネルの作成。

内容：パネルのレイアウト決定をして画用紙にすべての下書きを終えた。

結果：なし。

反省：なし。

#### 4. 全体のまとめ

レクリエーションをテーマに班員と楽しく活動しながらいろいろな物を作ったり、新しいレクリエーションゲームを作ることが出来ました。普段作る機会の少ないものを作れたり、オリジナルのゲームを考えたりよい経験が積めたと思います。特にゲームはこれからの活動でも使えるものなので使っていけたら嬉しいなと思います。

#### 5. 班員の感想

##### 班長

曾根琴美：1年間班長として大変なこともありましたが、楽しく活動ができてよかったです。

##### 副班長

福山裕也：やる気が空回りして怪我をしてしまったが、竹トンボをはじめ焼き板などの作品が形になってよかったです。また自分のやりたかったゲームも採用されてレクも思っていた以上に楽しかった。

##### 班員

森本紘太郎：クラフトやレク系の研活をするのは初めてで、自分にとっていろいろ新鮮でした。特に竹トンボ作りは簡単そうに見えるけどうまく飛ばすように作るとは難しかったです。いつかリベンジします。

矢野あゆみ：今年は遊びに関することを研活でやってきましたが意外と楽しめました（竹ぼっくりとか）笑 来年キャンプのレクとかでやってくれたら嬉しいです^^

後藤靖季：竹ぼっくり、竹トンボ、自然を使った遊びなど、今後のユースの活動に生かせるものを作ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。また、1回生と仲良くでき、とても楽しかったです。

三浦早絵：竹トンボを作ったりして童心にかえれてとても楽しい研活でした！

吉岡銀平：この研活は普段の活動での実践的なものとは違い、様々な自然の楽しみ方を存分に楽しむことができてよかった。しかし、バードコールで鳥を呼べなかったのは残念極まりない。

上原聖考：ユースらしく自然に触れることができ、工作やゲームを作っていくなかで改めて自然ってすごいなと思った。

林恭平：ものづくりが好きだったのでずっと楽しく続けられました。

増田将丈：研活を半年やってみて、いろいろな工作を作ることができてとてもよかったです。



KONAN  
YOUTH  
HOSTELING CLUB

